



7.呼び径75～250のNS形異形管の挿し口に帽、継ぎ輪などを接合できますか？



NS形の帽と継ぎ輪は、せめ配管や解体をより簡単に行うことができるように、押輪とボルト・ナットでゴム輪を締め付けるメカニカル継手を採用しています。

一方、その他のNS形異形管の挿し口には、屈曲防止突部が8ヶ所、接合用突部が4ヶ所形成されています。このため、これらの異形管に帽や継ぎ輪を直接接合しようとしても、これらの突部があるためにゴム輪を締め付けることができません。したがって、これらは必ず直管や切管の挿し口部に使用するようになっています。



また、ダクティル管による耐震管路は、曲管部、T字管部、片落管部が水圧によって移動しないように、異形管近傍の必要な範囲に離脱防止継手による一体化長さを確保します。継ぎ輪はもともと伸縮と屈曲が可能な構造ですので、これらの一体化の範囲内には使用できません。このことから、継ぎ輪は異形管と直結しないことが原則といえます。